

『三寶類字集』 人部と『廣韻』との対比

池
田
寛
子

問題提起

〔凡例〕

『三寶類字集』

佛 符^フ弗^フ交 青^{シヨ}費^ヒ 山^シノ力^{リキ}ナリ 不^フ和^ワ山^シトナリ 又^{マタ}才^{サイ}ナリ 流^{リウ}
又^{マタ}音^{イン}弼^{ヒツ} 又^{マタ}冬^{トウ}ノ 又^{マタ}佛^{フツ}侶^{リョ}仏^{フツ}字^ジ 又^{マタ}別^{ヘツ}字^ジ

【三丁・才・3行^③】

最上部の「佛」が標出漢字。その下の二行の注文が二行割注。二行割注右行の上から順に「符弗反」が反切、「音費」

が同音字注、「小ノカナリ」が和訓、「フハ」が片仮名字音注、「(和云) 小トケ (又) オ・ハ・ニ・ル」が和訓。二行割注左行の上から「(又) 音彌^{ヒナ}」が同音字注、「タスク」が和訓、「又佛^ハ俗^ハ仏 佛字ハ又別字^{ナリトモ}」が字の注。

『廣韻』

佛^子

曰漢明帝夢神人身有日光飛在殿前以問群臣傳毅對曰天竺有佛將其神也學記曰其施之也恃其求之也佛符弗切九

【四七六ページ】

最上部の「。」が各小韻の第一字めを示すマル。その下の「佛」が小韻代表字。その下の二行割注右行一字め「牟」から二行割注左行の終わりから六字め「也」までが「佛」の語義の注。二行割注左行の終わりから四字め以降「符弗切」が反切。二行割注末尾の漢数字「九」が各小韻における同音字数。

〔調査方法〕

『三寶類字集』における標出漢字と一致または対応する漢字を『廣韻』から見出し、当該の注文全てを対比する。その際に調査項目として反切、同音字注、和訓、漢文注に分類し、その項目ごとに対比した結果、一致と対応に分類する。以下に、上述の事例およびその他の事例を用いて、調査項目ごとの事例を示しておく（以下、『三寶類字集』は〈三〉、『廣韻』は〈廣〉と略述する）。

①反切【引用事例—aは上述の事例／bはP14・B表7事例1「呪」】

- a 〈三〉符弗反〈廣〉符弗切↓両者の反切下字の字体細部に相違があるが同字と判断し、一致とする。
- b 〈三〉他活反〈廣〉他括切↓両者の反切下字は異なるが音は同音なので、対応するとする。

②同音字注【引用事例—aは上述の事例／bはP8・表1事例1「倡」】

5 『三寶類字集』 人部と『廣韻』との対比

a 〈三〉音費 音彌〈廣〉費・彌は標出漢字「佛」と同一小韻でない

↓「費」・「彌」相互と、標出漢字との音は、〈廣〉との対比においては一致なしとする。

b 〈三〉音昌〈廣〉昌は標出漢字「倡」と同一小韻にある

↓「昌」と標出漢字「倡」との音は同音なので、一致するとする。

③和訓【引用事例―右の事例】

〈三〉小ノカナリ 小トケ タスク〈廣〉上記のいずれかと対応する漢文注はない↓対応なしとする。

④漢文注【引用事例―aはP10・A表2事例4「伺」／bはP11・B表3事例1「仵」】

a 〈三〉大、直、(「」)は日本における「也」の略字)〈廣〉大也 直也↓一致するとする。

b 〈三〉肥、〈廣〉身肥大也↓表記に相違があるが、意味は一致するので対応するとする。

また、右の事例以外に「片仮名字音注」、「字の注」があるので示しておく。

◎片仮名字音注【引用事例―上述の事例】

〈三〉フハ〈廣〉片仮名注記の記載無し↓反切「符弗反」の右にある片仮名「フ フツ」から「フツ」の字音は導き出せるが、対応させるためにはある程度の操作を要する。

◎字の注【引用事例―上述の事例】

a 〈三〉又佛俗仏〈廣〉仏の記載無し↓対応なしとする。

b 〈三〉佛字又別字〈廣〉上記内容の記載無し↓対応なしとする。

次に、この小論における調査事項の分類を表示する。

①反切 一致↓〈三〉における反切の表記と音ともに、〈廣〉と一致する場合。

対応↓〈三〉と〈廣〉において反切上字・反切下字一方の表記が異なるが、音は一致する場合。

②同音字注 一致↓〈三〉の標出漢字と同音字注が、〈廣〉において同一小韻内にある場合。

③和訓 対応↓〈三〉の和訓と〈廣〉の語義の漢文注の意味が一致する場合。

④漢文注 一致↓〈三〉の漢文注と〈廣〉の語義の漢文注が一致する場合。

対応↓〈三〉の漢文注と〈廣〉の語義の漢文注の表記に相違があるが、意味上の対応がある場合。

片仮名字音注、字の注はこの小論では調査項目として立てないこととする。また、これらの調査項目で一致・対応の見られない諸事例は終わりに「付記」として示してある。以下、この小論の論述の順序を示す。

二 二項目以上の一致または対応がある諸事例

三 一項目の一致または対応がある諸事例

四 音注表記の書き分けにおける一考察

五 結論

二 二項目以上の一致または対応がある諸事例

項目とは、凡例における反切、同音字注、和訓、漢文注を示し、それぞれを一項目と数える。ここでは『三寶類字集』と『廣韻』を対比させた場合に、二項目以上の一致または対応がある諸事例を示す。

〔二一〕同音字注・和訓の対応項目

『三寶類字集』の標出漢字と同音字注が『廣韻』において同一小韻内にあり、かつ『三寶類字集』の和訓と『廣韻』の語義の注が対応する事例を示す。まず、P 8、表1事例4「仁」を例に取り表の見方を説明する。最上部*は、該

当標出漢字が『廣韻』において小韻代表字であることを示す。標出漢字「仁」と同音字注「音人」は、『廣韻』において同一小韻内にあり、音が一致する。和訓「仁ノフ」は『廣韻』の語義の注「仁忍也」と対応する。『廣韻』の上段項目は、『三寶類字集』における標出漢字と同音字注の所在とを対比して示したものであり、その項目中の「・」は、『廣韻』における標出漢字一字が該当する。『三寶類字集』の「所在」三ウ1は三丁裏1行目を示す。『廣韻』の「所在」は、『三寶類字集』当該標出漢字の『廣韻』における該当ページを示す。また、同音字注・漢文注の両項目において一致・対応がある事例は全てあげる（以下、各表における記述方法はこれに従う）。

調査事実を述べる。項目数は五五例（対応字音注六〇例、対応和訓八〇例）で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字六八二例の8.0%。

次に、右の調査事実について考察を加える。P 8. 表1事例4 〈三〉「仁ノフ」〈廣〉「仁忍也」のように直接に対応する事例は、事例3・4・6（表中和訓位置、上中下）・7（上）・8（上中下）・9（上下）・10・11（上中下）・12・14・15（上）・16・17（上下）・18・19（上下）・20・24・26（下）・27・28・29・30・31・33・34（上下）35・36（上下）・37・38・39・41・42・43・44・45・46・47（上下）48・50・51・52・53・54（上中下）55、合計六一例（対応和訓八〇例に対して76.2%）である。一方、表1事例1 〈三〉「イサナフ」〈廣〉「導引先」のように対応に解釈を要する事例は、右以外の和訓一九例（23.7%）である。ここでは直接に対応する事例が解釈を要する事例よりも約三倍の対応があることに留意したい。また和訓には、声点付き和訓と声点無し和訓がある。『三寶類字集』においても声点は、「証拠」・「師説」を示すものであり、和訓における声点の有無は重要である。和訓八〇例において声点付き和訓は、事例1・2（上）・6（上中下）・8（上下）・9（下）・11（上中）・12・15（上中）・17（上）・19（上）・21・24・26（上下）・27・28・31・35・39（上中）・40・43・44・47（下）・51・53・54（上）・55、計三二例

表 1

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	漢字	出	三寶類字集
僂	僂	攸	ム	僂	僂	僂	僂	任	仕	仁	仁	侶	侶	漢字	出	三寶類字集
漂	鮮	音由	音ム	音高	音房	音庭	音童	音士	音士	音人	音易	音呂	音昌	字同音	字注	
カロシ	フ	トコロ	モヤルモヤウタイニ	ラル	ソハチカシ	トナルサムナム	カタシナツカミト	タフシモツアル	ミヤツアヘ	ミノフ	モノウシ	トモトモカラ	イサナフ		和訓	
五オ7	五オ4	四ウ5	四ウ1	四オ7	四オ4	四オ4	四オ3	三ウ5	三ウ5	三ウ4	三ウ3	三ウ2	三ウ1	所	在	廣
僂	仙僂	猷	以	僂	僂	庭僂	同童僂	任	士仕	仁人	易	呂	昌	三の漢字と同一小韻	三の漢字と同一小韻	
輕也	僂僂舞兒	所也	用也爲也	寄也	側也近也	止也息也	頑也僂僕	堪也保也當也	仕官	仁忍也	情也	伴侶	導引先	語義の注	語義の注	
151	136	204	251	150	193 427	194	23	218	253	102	347	256	193 426	所	在	

(40.0%)である。声点無し和訓は、右以外の和訓四八例(60.0%)である。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
僂	僂	像	佃	倣	仗	伏	代	俯	僂	侃	仇	伯	伺	付	ト
音閑	音我	音家	音田	音競	音杖	音服	音速	音府	音寬	音泛	音衆	音百	音伺	音賦	音赴
アハス	ルミヤカニ	ニツリ	ツクリ	ムイムイム	ウハハサ	カシル	ラカルカル	フシ	フス	カロシ	アタカタキ	ナカシ	ウラサフアラフ	サツク	ツルフル
九オ7	九オ5	九オ4	ハウ1	ハオ5	七ウ7	七ウ4	七オ7	六ウ7	六ウ6	六オ6	六オ6	六オ5	六オ2	五ウ1	五ウ1
閑	我	像	佃	倣	仗	伏	代	甫	免	汎	衆	伯	伺	付	赴
合也	速也	似也	作田也	倣倣戒也	器仗也	隱也	更代年代	低頭也	俯僂	輕也	離也	長也	伺候也	与也	倒也前倒
334 535	160	310	134	316 438	312 425	453	389	260	295	446	210	510	59 356	366	365 435 438 530

9 『三寶類字集』 人部と『廣韻』との対比

表1 饒

43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
佻	僇	僇	傷	偕	個	佻	僇	僚	僚	僇	僇	佻
音又	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音
タスツ	カシル	タスツ	ソコナフ	トモトモニミナ	ソムク	ツカフ	モツカニルクナシ	トモ	ヤスシコナリ	アヤトル	サフラフ	ヒトシ
主ウ3	主ウ3	主ウ1	主ウ7	主ウ4	主ウ2	主ウ1	主ウ3	主ウ5	主ウ5	主ウ6	主ウ3	主ウ2
宥又佻	僇…僇…僇…	撫…僇…	商…傷…	偕…僇…	面…僇…	遙…僇…	僇…僇…	聊…僇…	談…僇…	霽…僇…	候…僇…	謀…僇…
助也	隱也	輔也	傷損	俱也	背也	使也	纒也少也	朋也	安也靜也	誤也	伺候	等也
434	209 417	262	172	94	293 409	148	393	145 269	223 443	519 520	437	211

55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
儀	保	懷	僇	僇	佻	僇	僇	僇	僇	僇	僇
音互	音寶	音農	音質	音羊	音羊	音亞	音面	音稱	音朋	音卓	音次
ラシ	ヤシ…トル…カス	ホシ	カシ	トリコ	イハル	ラル	ソムク	アシイフ	タルク	オシナリ	トシ
主ウ2	主ウ2	主ウ1	主ウ6	主ウ4	主ウ3	主ウ6	主ウ1	主ウ7	主ウ5	主ウ5	主ウ5
宜…儀…	寶…保…	農…僇…	質…僇…	敷…羊…僇…	陽…羊…僇…	亞…僇…	面…僇…	稱…僇…	朋…僇…	斷…卓…僇…	次…僇…
義也	安也守也僇也	我也	堅也	囚也	詐也	倚僇	背也	揚也言也	輔也	大也	利也
45	303	33	468	78	171	421	293 409	200	201 424	465	354

ここでは〈廣〉の語義の注との対応において声点付き和訓と声点無し和訓を区別する必要があることを述べておく。

〔二二〕 同音字注・漢文注の一致・対応項目

(A表2) 『三寶類字集』の標出漢字と同音字注が『廣韻』において同一小韻内にあり、かつ『三寶類字集』の漢文注と『廣韻』の語義の注が一致する事例を示す。項目数は二〇例(一致漢文注二一例)で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の2.9%。P10. A表2事例3「佻」(三)「載」(廣)「載也」であり「一」と「也」の表記の

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
保	倅	倅	俗	原	伶	俚	儻	儼	儼	伺	依	億	僧	漢出 眞字	三寶類字集
頂音	屢音	昔時	曰音	昔願	昔堂	隈音	憚音	戾音	昔時	同通音	昔求	昔愜	昔達	同音 字注	
恤、	哭餘聲	大、	毀、	黠、	樂人	國名	疾、	精、	淺、	大、直、	戴、	十萬	終也	漢文注	
六才3	六才2	五才3	五才6	四才5	九才7	ハウ5	ハウ1	ハオ2	セウ3	六才3	五才3	四才3	三才7	所 在	
瀕弭……保、	宸・倅、	躋・倅、	舅俗白、	願・原、	靈(レ)伶、	隈……俚、	憚……儻、	機……儼、	踐……儼、	伺(レ)伺、	表……求(レ)保、	憶儼、	稽・達・僧、	三の撰出漢字と同一 番字注が同一小欄	
撫也	哭餘聲	大也	毀也	黠也	樂人	國名	疾也	精也	淺也	大也直也	戴也	十萬	終也	關漢の注	
245	254	255	323	397	195	96	294 401	65	390 392	23 31 236	210	526	157 158	所 在	

20	19	18	17	16	15
歸	俳	儼	儼	儼	儼
音	音	音	音	音	音
造	形	禪	樹	斯	科
使	成	能	立	養	美
主5	次3	次2	主1	主6	次76
達	荆	鋌	樹	斯	科
歸	形	儼	儼	儼	儼
1	例	禪	1	1	1
使也	成也	能也	立也	養也	美也
57	194	133	364	48	164

『廣韻』において同一小韻内にあり、かつ『三寶類字集』の漢文注と『廣韻』の語義の注が対応する事例を示す。項目数は二一例（対応漢文注二三例）で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の3.0%。B表3事例1「仁」〈三〉「肥」〈廣〉「身肥大也」のように解釈を要して対応する事例が二一例全てである。

B表3

* 三寶類字集										廣韻	
漢字	出	同音	漢文注	所	在	三の標出漢字と同音字注が同一小韻	廣韻	所	在		
傑	音揭	獨立、笑俊、	九75	傑……揭	俊也	497	傑	音亮	長一尺五寸	傑	音亮
仞	音刃	七尺、	七05	刃……仞	七尺曰仞	392	仞	音焦	行客止之白	仞	音焦
忒	音和	忒、	七04	教勅……忒	意慎忒	525	忒	音呂	不欲為	忒	音呂
傀	音環	大、	七03	傀環	大見	140	傀	音遠	左右兩視	傀	音遠
佺	音託	往來自、	六75	辛……託佺	行兒	109	佺	音希	依一、	佺	音希
伍	音五	五人、	六07	五……伍	五人為伍	266	伍	音朱	一儒	伍	音朱
仇	音當	人姓	六06	掌仇	姓	311	仇	音朱	斐生二子、	仇	音朱
仵	音千	千人長	五71	千……仵	千人之長也	132	仵	音維	會	仵	音維
條	音條	一蠅	五03	這條……條	條	145	條	音安	宴	條	音安
仁	音紅	肥、	三75	洪……紅仁	身肥大也	30	仁	音逸	列、	仁	音逸
儻	音條	一蠅	五03	這條……條	條	145	儻	音光	武、	儻	音光

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂	僂
音亮	音焦	音呂	音遠	音希	音朱	音維	音安	音逸	音光	音亮
長一尺五寸	行客止之白	不欲為	左右兩視	依一、	一儒	斐生二子、	會	宴	列、	武、
三74	三74	三05	六74	六74	六72	六76	五05	三74	三03	三76
亮……僂	焦……僂	呂……僂	遠……僂	希……僂	朱……僂	維……僂	安……僂	逸……僂	光……僂	亮……僂
一尺五寸	行客止見	僂托心不欲為也	左右視也	依僂	僂僂短人	畜雙生子	會物	宴也	僂行列也	僂僂武見
146	248	256	56	65	77	272	353	121	469	182

「三三」反切・和訓の一致または対応項目

(A表4)『三寶類字集』における反切の表記・音が『廣韻』における反切と一致し、かつ『三寶類字集』の和訓と『廣韻』の語義の注が対応している事例を示す。項目数は十三例(対応和訓二例)で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の1.9%(表は次ページ上段)。

(B表5)『三寶類字集』の反切の音は、『廣韻』と一致するが、反切上字・反切下字何れかの表記に相違があり、かつ『三寶類字集』の和訓と『廣韻』の語義の注が対応している事例を示す。項目数は九例(対応和訓十四例)で、

この小論で調査対象に該当する全標出漢字の1.3%。

次に右の調査事実について考察を加える。P12・A表4の事例1「休」〔三〕「ヤスム」〔一〕〔廣〕「息也 善也」のように直接的に対応する事例が、A表4は事例1（上下）・2・3（上下）・4・6・7・8・10・11（和訓四）・12・13・（和訓四）、合計十九例（対応和訓二一例に対して90.4%）である。B表5は事例3・4・5（上中下）・8（和訓数六）・9、和訓数十二例（対応和訓十四例に対して85.4%）である。A表4は事例B表5を合わせて

A表4

*11	*10	*9	*8	*7	*6	*5	*4	*3	*2	*1	漢字出	三寶類字集
供	值	儼	倂	佞	俺	件	傲	儼	佻	休	漢字出	三寶類字集
居用反	直吏反	即就反	昌六反	胡絳反	於劒反	其輦反	五到反	他代反	苦浪反	許尤反	反切	三寶類字集
ソナフタチル	アシル	ヤトフ	ハシメ	モトル	オホイナリ	オホカ	オコル	カルカス	アツ	ヤスム	和訓	三寶類字集
五ウ1	五ウ4	五ウ7	五ウ4	五ウ7	五ウ6	五ウ2	五ウ3	五ウ6	五ウ7	五ウ1	所在	三寶類字集
居用切	直吏切	即就切	昌六切	胡絳切	於劒切	其輦切	五到切	他代切	苦浪切	許尤切	反切	廣韻
具也給也	當也	儼賃	始也	辰也	大也	分次也	慢也	借也	敵也	息也善也	語義の注	廣韻
385	356	436	455	283	444	292	417	390	428	209	所在	廣韻

B表5

*9	*8	*7	*6	*5	*4	*3	*2	*1	漢字出	三寶類字集
倂	備	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	漢字出	三寶類字集
桑故反	皮後反	彼廟切	奴孝反	渠養反	七刃反	直理反	勅聊反	居去反	反切	三寶類字集
ムカフ	ソナフタチル	ムル	サハカ	オコタル	イタル	下ウク	カロ	オコル	和訓	三寶類字集
五ウ2	五ウ6	五ウ6	五ウ6	五ウ1	五ウ1	五ウ1	五ウ3	五ウ7	所在	三寶類字集
桑故切	平秘切	方廟切	奴教切	渠卷切	七邊切	直里切	徒聊切	居御切	反切	廣韻
向也	備具也皆也	倂散	不靜	奴也疲也	至也	儲也	輕佻	倂傲	語義の注	廣韻
369	351	415	416	410	394	253	445	361	所在	廣韻

*13	*12	漢字出	三寶類字集
假	倂	漢字出	三寶類字集
古訝反	則臥反	反切	三寶類字集
カルイタル	ヤスシ	和訓	三寶類字集
五ウ5	五ウ4	所在	三寶類字集
古訝切	則臥切	反切	廣韻
借也休假也	安也	語義の注	廣韻
308	164	所在	廣韻

計二八例（88.5%）である。一方、A表4事例9「儼」〈三〉「ヤトフ」〈廣〉「儼質」のように解釈をする事例が、A表4は右以外の二例（9.5%）、B表5は右以外の二例（14.2%）で、計四例（11.4%）である。ここでの対応例においては直接的な対応の事例が解釈を要する事例よりも全体として約七倍の対応であることに留意したい。

〔二4〕反切・漢文注の一致または対応項目

（A表6）『三寶類字集』における反切の表記と音が『廣韻』における反切と一致し、かつ『三寶類字集』の漢文注と『廣韻』の語義の注が一致または対応している事例を示す。項目数は八例（対応漢文注十例）。そのうち、P14・A表6事例2「儻」〈三〉「女耕反」・「困、」〈廣〉「女耕切」・「困也」のように両文献の反切が一致し、かつ漢文注と語義の注もともに一致する事例は、事例1・2・4・8、合計四例（対応漢文注十例に対して40.0%）。一方、P14・A表6事例3「恪」〈三〉「下各反」・「姓」〈廣〉「下各切」・「人姓出纂文」のように両文献の反切が一致し、漢文注と語義の注は対応する事例は、右以外の四例（40.0%）。計八例は、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の1.1%（表は次ページ）。

（B表7）『三寶類字集』の反切の音は『廣韻』と一致するが、反切上字・下字何れかの表記に相違がありかつ『三寶類字集』の漢文注と『廣韻』の語義の注が対応している事例を示す。項目数は八例（対応漢文注数十二例）。そのうち、P14・B表7事例5「侏」〈三〉「恥各反」・「寄、」〈廣〉「他各切」・「寄也」のように両文献の反切が対応し、漢文注と語義の注が一致する事例は、事例5・6・7・8（上下）、四例（対比漢文注数一二例に対して33.3%）。一方、P14・B表7事例1「侏」〈三〉「他活反」・「可」〈廣〉「他括切」・「侏可也」のように両文献の反切が対応し、漢文注と語義の注も対応する事例は、右以外の四例（33.3%）。計八例は、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の1.0%（表は次ページ）。

また、A表6事例2「儻」〈三〉「困」〈廣〉「困也」のように「」と「也」の表記の相違のみの事例は、A表6が三例（事例1（左）・2・7）、B表7が九例（事例2（上下）・5・6・7（上中下）・8）、計十二例（54・5%）である。

A表6

8	7	6	5	4	3	2	1	漢字出	反切	漢文注	所在
俠	儻	佔	傷	混	佟	儻	侃	漢字出	反切	漢文注	所在
胡類反	丑減反	丁兼反	以鼓反	胡本反	下各反	女耕反	空旱反	強直	反切	漢文注	所在
任	癡	一儻	悽輕	一化	姓	困	正也	強直也	反切	語義の注	所在
去ウ2	去ウ4	去ウ4	去ウ6	去ウ4	去ウ6	去ウ1	去ウ3	所在	反切	語義の注	所在
胡類切	丑減切	丁兼切	以鼓切	胡本切	下各切	女耕切	空旱切	正也	反切	語義の注	所在
任俠	癡也	佔儻輕薄也	相輕慢也	混化	人姓出繁文	困也	正也	強直也	反切	語義の注	所在
541	337	228	347	282	508	189	284 401	所在	反切	語義の注	所在

B表7

8	7	6	5	4	3	2	1	漢字出	反切	漢文注	所在
儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	漢字出	反切	漢文注	所在
無滯反	他頂反	千內反	恥各反	許維反	古會反	火緣反	他活反	強直	反切	漢文注	所在
妙、細、	直、代、長、	副、	奇、	醜面、	市	智、慧、	可	強直也	反切	漢文注	所在
去ウ5	去ウ5	去ウ4	去ウ1	去ウ5	去ウ4	去ウ4	去ウ4	所在	反切	語義の注	所在
無非切	他鼎切	七內切	他各切	許維切	古外切	許緣切	他括切	強直也	反切	語義の注	所在
妙也細也	直也代也長也	副也	寄也	儻醜面	合市也	智也慧也	儻可也	強直也	反切	語義の注	所在
63	340 432	388	506	58	381	140	487	所在	反切	語義の注	所在

〔二五〕反切・同音字注の一致・対応項目

『三寶類字集』における反切の音は、『廣韻』と一致するが反切上字・反切下字何れかに相違があり、かつ『三寶類字集』、標出漢字と同音字注が『廣韻』において同一小韻内にある事例を示す。項目数は一例（表8）。

〔二六〕その他の項目 両文献の対応項目が三項目以上の事例を示す。事例数は三例。この小論で調査対象に該当する全標出漢字の0.4%（表9）。

15 『三寶類字集』 人部と『廣韻』との対比

表 10

8	7	6	5	4	3	2	1	三寶類字集	廣韻
條	條	倂	倂	倂	倂	倂	人	三寶類字集	廣韻
音	音	音	音	音	音	音	音	三の類出漢字と同	三の類出漢字と同
五才	四才	四才	四才	四才	四才	四才	三才	音字注が同一小韻	音字注が同一小韻
叔條倂	蕭(三)倂	急倂	吟……氷	帝(三)倂	黃皇(三)倂	寧倂	仁人		
456	144	532	219	371	181	431	102	所在	所在

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9
伐	伐	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂
音	音	音	音	音	音	音	音	音	音
七才	七才	六才	六才	六才	六才	六才	五才	五才	五才
伐倂	力倂	幸倂	堯倂	光(三)倂	塵……儂	遯倂	休倂	十倂	香倂
477	524	317	146	182	374	522	209	531	296

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻
音	音	音	音	音	音	音	音	音	音
十才	十才	十才	十才	十才	九才	九才	九才	九才	七才
容(三)儻	扇倂	篇倂	肩倂	崔倂	慧倂	儻倂	誠倂	靈倂	逸倂
35	410	139	491	97	373	395	385	195	469

38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂	倂
音	音	音	音	音	音	音	音	音	音
十才	十才	十才	十才	十才	十才	十才	十才	十才	十才
官倂	當倂	賓倂	倩倂	馬倂	蕩倂	葉倂	多倂	懲倂	弼倂
125	180	103	406	421	201	538	159	142	472

ここでは『三寶類字集』と『廣韻』とを対比させた場合に、一項目の一致・対応がある諸事例を示す。

三 一項目の一致または対応がある諸事例

表 8

1	三寶類字集	廣韻
物	反切	同音字注
武井反音物	同音字注	三の類出漢字と同
六才	所在	所在
文弗切	反切	三の類出漢字と同
物……物	音字注が同一小韻	音字注が同一小韻
278	所在	所在

表 9

3	2	1	三寶類字集	廣韻
仍	倂	代	三寶類字集	廣韻
音	音	音	三の類出漢字と同	三の類出漢字と同
十才	十才	十才	音字注が同一小韻	音字注が同一小韻
如陵反	子方童	魚訖反		
子方童	子方童	子方童		
如乘切	子方童	子方童		
因也重也	子方童	子方童		
200	101	477	所在	所在

表 11

三寶類字集		廣韻	
漢字	出	漢字	注
仲	ナカ	中	中也
俾	ツツ	便	從也
黛	トモ	眉黛	眉也
位	トモ	俱	從也
倚	ヲリ	依	倚也
佳	トモ	善	也大也
住	トモ	止	也
三寶類字集	343	廣韻	343
佐	タス	助	也
儻	ツセリ	仆	也
僖	タノ	樂	也
侍	タノ	從	也
儗	タノ	見	也
側	カ	傍	側
儻	タ	倅	也
俟	タ	待	也
偷	ヌ	盜	也
佐	419	助	也
儻	174	仆	也
僖	62	樂	也
侍	358	從	也
儗	358	見	也
側	528	傍	側
儻	428	倅	也
俟	253	待	也
偷	214	盜	也
俱	トモ	具	也
儼	ウ	敬	也
使	ム	令	也
僖	ト	富	也
儗	ヤ	和	也
側	チ	迫	也
儻	タ	因	也
俟	タ	武	猛
偷	ニ	類	也
俱	80	具	也
儼	336	敬	也
使	252	令	也
僖	358	富	也
儗	420	和	也
側	463	迫	也
儻	174	因	也
俟	253	武	猛
偷	214	盜	也
信	トモ	信	也
儼	ハ	始	也
使	ハ	造	也
僖	ハ	爲	也
儗	ハ	奢	也
側	ハ	仆	也
儻	ハ	直	也
俟	ハ	歌	舞
偷	ハ	相	背
伴	ハ	侶	也
信	392	信	也
儼	370	始	也
使	419	造	也
僖	506	爲	也
儗	245	奢	也
側	245	仆	也
儻	431	直	也
俟	261	歌	舞
偷	278	相	背
伴	286	侶	也

〔三三〕 漢文注と語義の注との一致・対応

のように「□也」と直接に対応する事例は、事例1・2（上下）・3（上下）・4・6（上下）・7・8・9・10・12・（上下）・13（上下）・14・15・16・17・19・20（和訓数4）・21・22・23（上下）・24・25（上下）・26・29・30・31（左右）・32（和訓数6）・33（上下）、合計数四六例（対応和訓五一例に対して90.1%）。
 一方、表11事例5「黛」〈三〉「イ」スミ〈廣〉「眉黛」のように対応に解釈を要する例が右以外、合計数五例（9.8%）。ここでの対応例においては、直接な対応の事例が解釈を要する事例よりも全体として約九倍の対応があることに留意したい。また、声点付き和訓と語義の注との対応は、事例1・5（上下）・6（上）・8（上）・9・10・11・12・15・16・17・20（右下、左上上）・22・28・30・31（右）・32（右上、中上下）・33（下）、合計二三例（45.0%）。

表 12

6	5	4	3	2	1	漢字	三寶類字集
伋	倂	佰	仂	仙	儉	漢文注	廣韻
伋、	姓、	一百、	流星	月信	貝載品	所 在	廣韻
七ウ4	七ウ6	六ウ5	六ウ4	五ウ4	五ウ3	所 在	廣韻
伋弱兒	姓身人也	二百為一佰也	仂約流星	仙儉音	載器也	所 在	廣韻
	98 436	510	502	136	313	所 在	廣韻

14	13	12	11	10	9	8	7
儻	倂	儻	儻	儻	儻	儻	儻
疲、	姓	儻儻見	長、	不安、	幣、	愛、	系、
五ウ4	五ウ6	五ウ1	五ウ2	五ウ6	五ウ4	五ウ5	五ウ1
疲也勞也	姓也	儻儻見	長也動也	不安也	儻幣	愛也	系也
511	32	489	489	243	388	96	435

22	21	20	19	18	17	16	15
儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻	儻
開衣領	仰頭、	儻	衆、	姿、	次、	具、	醉行之具
五ウ4	五ウ5	五ウ4	六ウ1	五ウ7	五ウ5	五ウ2	五ウ1
開衣領也	仰頭見	儻儻	衆也	姿態	次也	具也	醉行兒
269	329	37	282	409	357	311	200

『三寶類字集』の漢文注と『廣韻』の語義の注が一致または対応している事例をまとめて示す。項目数は合計二二例（対応漢文注二六例）で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の3.2%。

次に右の調査事実「二・四」同様に考察を加える。表12事例8「儻」〈三〉「愛、」〈廣〉「愛也」のように「、」と「也」の表記の相違のみの事例は、事例7・8・10・11（和訓四）・14（上下）・16・17・19、合計十二例（46.1%）である。また表12事例12「儻」〈三〉「儻健兒」〈廣〉「儻儻健兒」、事例20「儻」〈三〉「儻儻」〈廣〉「儻儻」のように、「三寶類字集」における略述表記「、」のみの相違が二例（7.5%）。一方、表12事例1「儻」〈三〉「貝載器」のよう「廣」「載器也」のように表記は一致しないが、意味上は一致する事例が合計十二例（46.1%）。

19 『三寶類字集』 人部と『廣韻』との対比

A表 13

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
他	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	漢字出	三寶類字集
託	人	胡	而	呼	胡	奴	蒲	於	力	許	胡	符	反切	
何	善	介	究	八	對	烏	木	斬	追	鑑	歌	弗	反	
反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	所在	
三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	所在	
託	人	胡	而	呼	胡	奴	蒲	於	力	許	胡	符	反切	廣韻
何	善	介	究	八	對	烏	木	斬	追	鑑	歌	弗	反切	
切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	所在	
160	392	385	394	489	389	296	452	383	56	445	161	476	所在	

B表 14

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
侯	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	漢字出	三寶類字集
力	蒲	於	音	步	先	下	蒲	薄	渠	獲	反切	
計	寔	樂	丁	本	盍	介	逆	乃	往	曾	反	
反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	所在	
十才	十才	十才	九才	七才	五才	五才	四才	四才	三才	三才	所在	
郎	蒲	於	音	蒲	私	胡	蒲	薄	求	蘇	反切	廣韻
計	徑	角	丁	本	盍	介	逆	亥	往	增	反切	
切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	所在	
374	431	466	195	283	537	253	320	275	313	201	所在	

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12		
傾	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	儼	漢字出	三寶類字集
口	張	蒲	五	輝	丁	況	渠	烏	先	子	他	反切	
營	留	拜	昆	房	甘	域	命	和	紺	夜	盍	反	
反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	所在	
三才	三才	三才	六才	三才	三才	六才	六才	三才	三才	三才	三才	所在	
去	張	蒲	牛	婢	都	況	渠	烏	蘇	之	吐	反切	廣韻
營	流	拜	昆	房	甘	逼	敬	禾	紺	夜	盍	反切	
切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	切	所在	
192	210	386	119	139	224	356	429	162	442	423	537	所在	

三例で、この小論で調査対象に該当する全標出漢字の1.9%。
 (A表13)『三寶類字集』における反切の表記・音が『廣韻』における反切と一致する事例を示す。項目数は合計十
 (三4)反切の一致・対応

注または反切である事例は四六〇例であり、そのうち二九一例が『廣韻』と一致または対応する。以下に、事例統計をまとめて示す。

また、『廣韻』と一致または対応のある事例のうち、『廣韻』の小韻代表字について分類すると以下のようなになる。

- 1 「標出漢字 同音字注」形式で、当該標出漢字が『廣韻』における小韻代表字である例 三三例 (17.8%)
- 2 「標出漢字 反切」形式で、当該標出漢字が『廣韻』における小韻代表字である例 七一例 (66.9%)
- 3 同音字注そのものが『廣韻』における小韻代表字である例 一一三例 (61.0%)

この小論の調査対象の音注項目において、同 統計

音注第一項目		事例数		項目		事例数
反切	同音字注	三三八		有	無	一八五
		有	無			
三三三	無	有	無	△(三) 標出漢字と同音字注が〈廣〉において同一小範圍にある	二一	
				△(三) 標出漢字と同音字注が〈廣〉において同一小範圍ではない	二二	
三三三	有	有	無	△(三) 標出漢字が〈廣〉に見られないため、同音字注の確認ができない	三三	
				△(三) 反切が〈廣〉の反切と一致または対応する	一〇六	
三三三	無	有	無	△(三) 反切と〈廣〉の反切が一致または対応しない	五二	
				△(三) 標出漢字が〈廣〉に見られないため、反切の確認ができない	六四	

以上の調査事実によつて、音注表記形式の書き分けには何等かの典拠・規範があつたのではないかと思う。『三寶類字集』人部のみではこの考察は推論の域を出ないので、結論は今後に見送ることとする。

五 結論

この小論では『三寶類字集』と『廣韻』における一致・対応項目を取り上げた。項目①から④各々の調査結果を以下に示す。

①反切―『三寶類字集』人部において反切は、二七二例。そのうち『廣韻』と一致する事例は三四例(15.3%)、『廣韻』と対応する事例は四三例(15.8%)、それら諸事例の傾向として、反切対応の事例数が反切一致の事例数より多く確認できた。

②同音字注―『三寶類字集』人部において同音字注は、三〇四例。そのうち『廣韻』と一致する事例は一八二例(59.8%)。それら諸事例の傾向として、①から④の項目中で最も一致数が多く確認できた。

③和訓―『三寶類字集』人部において和訓は一二三四例。そのうち『廣韻』と対応する事例は一七五例(13.2%)。声点付き和訓は七一例(5.3%)で、『廣韻』の漢文注「□也」と直接に対応する事例が一二七例(10.3%)。それら諸事例の傾向として、『三寶類字集』の和訓が『廣韻』の漢文注「□也」と直接に対応する事例が多く確認できた。

④漢文注―『三寶類字集』人部において漢文注は一九四例。そのうち『廣韻』と一致する事例は四八例(24.7%)、『廣韻』と対応する事例は四一例(21.1%)。それら諸事例の傾向として、『三寶類字集』の和訓に對して『廣韻』の漢文注が「□也」と直接に対応する事例が多く確認できた。

終わりに、この調査結果に基づく新たな課題を挙げておく。

1. この小論での調査結果は、『三寶類字集』全ての部首における全注文において共通の特質といえるのかどうか。
2. 『廣韻』以外の中国字書と対比させた場合に、どのような一致・対応が確認できるのか（特に『廣韻』と一致しない諸事例との対比が重要である）。

3. 『三寶類字集』と同じ真言系諸本の一つ観智院本『類聚名義抄』と『廣韻』とを対比した場合に、どのような一致・対応が確認できるのか。

今後は、以上三点を中心に調査・考察を行ないたい。

注

- (1) 望月郁子『類聚名義抄の文献学的研究』笠間書院（一九九二年二月）の序論（四Ⅱ）、第一部第三章『類聚名義抄』の編纂事情についての一考察」二。

- (2) 池田寛子『三寶類字集』と観智院本『類聚名義抄』の比較——「人部」における標出漢字——（松本寧至監修『日本文学の創造と展開 古典編』所収 勉成出版 二〇〇一年十二月）。

- (2) 小論における底本は、天理図書館善本叢書和尚部第二卷『和妙類聚抄 三寶類字集』天理大学出版部（一九七一年一月）。

- (3) 小論における底本は、澤存堂本底本の陳彭年等重修『校正宋本廣韻』藝文院書館（一九八三年二月）。

付表

1. 『三寶類字集』における標出漢字が『廣韻』にない事例一覧

（表の見方—整理番号／標出漢字 二行割注／所在）

2. 『三寶類字集』における注文が『廣韻』と一致または対応しない事例一覧

（表の見方—標出漢字 二行割注／〈三〉所在／〈廣〉所在）

32	伯	今俗字
31	伺	俗字
30	伺	俗字
29	似	俗字
28	似	俗字
27	似	俗字
26	似	俗字
25	似	俗字
24	似	俗字
23	似	俗字
22	似	俗字
21	似	俗字
20	似	俗字
19	似	俗字
18	似	俗字
17	似	俗字
16	似	俗字
15	似	俗字
14	似	俗字
13	似	俗字
12	似	俗字
11	似	俗字
10	似	俗字
9	似	俗字
8	似	俗字
7	似	俗字
6	似	俗字
5	似	俗字
4	似	俗字
3	似	俗字
2	似	俗字

33	伯	今俗字
32	伺	俗字
31	伺	俗字
30	伺	俗字
29	似	俗字
28	似	俗字
27	似	俗字
26	似	俗字
25	似	俗字
24	似	俗字
23	似	俗字
22	似	俗字
21	似	俗字
20	似	俗字
19	似	俗字
18	似	俗字
17	似	俗字
16	似	俗字
15	似	俗字
14	似	俗字
13	似	俗字
12	似	俗字
11	似	俗字
10	似	俗字
9	似	俗字
8	似	俗字
7	似	俗字
6	似	俗字
5	似	俗字
4	似	俗字
3	似	俗字
2	似	俗字

34	伯	今俗字
33	伺	俗字
32	伺	俗字
31	伺	俗字
30	伺	俗字
29	似	俗字
28	似	俗字
27	似	俗字
26	似	俗字
25	似	俗字
24	似	俗字
23	似	俗字
22	似	俗字
21	似	俗字
20	似	俗字
19	似	俗字
18	似	俗字
17	似	俗字
16	似	俗字
15	似	俗字
14	似	俗字
13	似	俗字
12	似	俗字
11	似	俗字
10	似	俗字
9	似	俗字
8	似	俗字
7	似	俗字
6	似	俗字
5	似	俗字
4	似	俗字
3	似	俗字
2	似	俗字

[illegible][illegible][illegible]